

3月19日(日)



北海道羅臼産の脂ののった

豪華

1尾

580円 (税込)

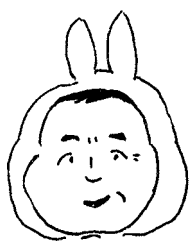
西田鮮魚店 072-5246

御用聞き便専用番号 090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達) 御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

こんにちは、西田鮮魚店の菊間です。3月も半ば、大分暖かくなりましたね。というか暑いくらいな日もありますね。そんな中、熱気あふれる西田鮮魚店からのオススメ商品をご紹介します。
今回は北海道は羅臼からホッケをお届けします。それもただのホッケではなく真ホッケなんです。いつも店頭に並んでいるのは縞ホッケなのですが、この真ホッケは脂のりが別物なんです。お店で試食したり、その場にいたスタッフ全員が手を止めて夢中になり食べていました。気付けば骨と皮だけに...とにかく一口食べればわかります。後を引く旨さなんです。白飯がいくらあっても足りないくらい。
更に驚き、温かい内だけではなく、冷めてもまた段々と美味しいのです。これには店長もびっくりしていました。
一尾580円ですが、二尾だと980円と更にお得！ホッケは魚偏に花と書きます。これから花が咲き乱れる時期にピッタリなお魚です。是非お召し上がり下さい。数量限定なので、食べた方は西田鮮魚店へレッツゴー！

西田鮮魚店 菊間 徹也

『60歳を過ぎると、人生はどんどんおもしろくなります』



鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史

前々回の『中国山地のへそとモンベル』が新聞に折り込まれた日、同じ上野池の大原さんから電話をいただいた。明日の庄原と一緒に考えよう、ついでには4月に、大原さんのお仲間と酒でも飲みながら、という誘い、すぐにお受けした。

そのとき、大原さんから「若宮正子さんを知ってるでしょ。世界最高齢プログラマーの」と言われた。この『世界最高齢のプログラマー』という言葉が聞きとれず、何回か聞き直した。テレビのCMでも流れているという言葉が、頭の隅に引っかかった。見たことがあるような気がする。プログラマーというくらいだからデジタルに生きる女性？

大原さんは、以前、その若宮正子さんを庄原にお呼びして、無料で講演会を催されたことがあるのだとか。150人集まられたらしい。その若宮さんが3月11日の朝、フジテレビの番組に出演されるから見ておいてほしいと言われた。「もちろんです」と答え、電話を切った。

さあ、若宮正子さんがわからない。すぐにヤフーの世話になった。ああ、見たことある。

若宮さんは1935年生まれ。現在88歳で世界を股に大活躍。すごっ。彼女が、一躍、有名になったのは81才の時に作った「hinatan (ひなだん)」というゲームソフト。それが、『アッブル』のタイム・クックというCEOの目にとまり、それから、彼女の人生が大きく変わった。

大原さんの言葉は熱かった。すこし知っておかなければと思い、若宮さんの本を買うことにした。

『独学のススメ』『60歳を過ぎると、人生はどんどんおもしろくなります』『老いてこそデジタルを』の3冊をアマゾンで注文した。

そんな私を見ていた悦子、「本屋さんがなくなるわけじゃね」とポツリ。そうだよな。これもデジタルだよな。チャチャッとスマホに打ち込むだけで、早いときは翌日、遅くても2〜3日うちには届くものな。店の中を探し回る必要もないし。

商売をする身としては、ネットは怖い。デジタルは怖い。背筋が凍る。

二日後、3冊ともそろった。まず『独学のすすめ』から読み始める。

第1条 バンジージャンプじゃあるまいし、恐がらずに飛び込んでみよう。

第2条 飽きたらやめちゃえ。

第3条 英語は大阪人のり。

第10条まで。なんか、いい感じだ。元気が、いや、勇気がわく。若い時から物おじせず、言葉はわからなくても、ひとり海外旅行でもなんでもするような元気な女の子だったようだから、若宮さんだからできた、みたいなことはもちろんあるだろうけど、べつに『世界最高齢のプログラマー』になろうと思ってるわけじゃなし、すこし、真似してみようかなと思ったりする。

ちよっと話とぶけれど、この前、内館牧子の『老害の人』という小説を買って読んだ。その前は、精神科医の和田秀樹の『老害の壁』と『60歳からはやりたい放題』を読んで、森信さんも同じように読んでいたのを知って、みんな考えていることは同じだと思っておかしかった。

年をとるとというのは、なかなか大変だ。

好きな読書しようと思っても字が小さすぎて見えにくく、ハズキルーペを買ってきて、読みやすくなったと喜んだのもつかの間、登場人物の整理ができず、「ん？これは誰だった？」とペー

ジを、さかのぼるが、めんどくさくなくて「まあいいか」と読み進め、「?????」となる。だが、まあ、最後まで読み終えることはできる。ときおり、忍耐力の訓練かと思いきや、今年こそ、一ヶ月に5^{キロ}のランニングを6回、走るぞと決めて、1月は7回走った。2月も……、と思っていたら3回目を走ったあと足首が痛くなった。それも両足。今も足を引きずっている。

悦子は、無理せずに歩けばいいじゃないかと言う。しかし、5^{キロ}のランニング、しかも、1^{キロ}7分前後のジョギング程度のスピードで、無理せず、と言われることが情けない。車をバック駐車する。必ず曲がる。白線には入っているのだが、ねじれる。不思議だ。

そんなことは、まあいい。問題は『老害』だ。『老害』の恐さは、自分では気づかないことらしい。ここでも、悦子が言う。娘の婿が我が家に来て、一緒に酒を呑む。私が「呑め、呑め」と強引にすすめ、毎回、毎回、同じ話をするらしい。息子は「もういらん」とか「もう聞いた」とか言うけど、婿は、素直に呑み、うんうんとうなずきながら聞いてくれる。

私だって、遠慮するなよとの思いで酒をすすめ、面白い話をしているつもりなのだが、どうも、そうではないらしい。これだって、そうは言っても身内の中だけだから、それはそれで仕方ないですむ。問題は外だ。

内館牧子の『老害の人』は、それを、こと細かく、おもしろおかしく書いてる。自分は、彼らとは違うと思って読むからおもしろいのだが、もし、そうと気づかぬうちにそれをやっていたらと思うと、ぞつとする。前半は、そのオンパレード。そして、後半で解決策が……。「そうか、そうだったのか」と思える。どこかで、そんな、めでたし、めでたしになるか？と突っ込みをいれる自分がいるが……。よかつたら読んでみるという。

若宮さんにもどる。私も思い切って飛び込んでみることにする。ジョイフルに『ヨガスタジオR』がある。この前、「足首が痛いんじゃないか」とオーナーの小原さんに相談した。すると彼女は明確に指摘した。準備運動と走ったあとのクールダウンに問題があると。『ヨガスタジオR』に通うことを決断した。

今日は触れなかったが、和田秀樹の『60歳からはやりたい放題』も、「なるほどな。そりゃそうだ」。その連続。こちらもおすすめする。

最後に告白。

大原さん、11日のテレビ見れませんでした。広島で家族のちよっとした集まりがあり、それと重なって、うっかり。録画すればよかったのですが、方法がわかりません。デジタルに弱いのです。娘に頼めばよかったのですが、彼女も3人の子どもの世話でバタバタしていて……。

申し訳ありません。録画の方法、勉強しておきます。

